



特定中山間保全整備事業等における木材利用の取組

森林農地整備センター農用地業務部

森林農地整備センターで実施している特定中山間保全整備事業等では、地域資源の活用の一環として、間伐材を利用した取組みを行っています。

木製水路工による湧水の効果的処理

木製の水路は、側面に隙間があるため、山側からの湧水を効果的に処理ができ、水路法面の崩壊を防ぐことができます。



木製土砂流出防止柵による道路の浸食防止

土砂流出防止柵の隙間から水だけ排除し、法面と柵の間に土砂を効果的に堆積させることができますので、降雨や湧水による法面の浸食を防止することができます。

地域住民による木製転落防止柵の設置

木製の転落防止柵は施工が容易なため、地域住民による直営施工が可能です。



長大法面の維持管理のための木製階段の設置

法面管理のために設置する木製階段は、現地の地形に併せて柔軟な施工が可能であり、他の素材と比べ軽量であることから、施工性にも優れています。

丸太を利用した法面保護工

間伐材で、法面を覆うことで雨水による表面浸食を防止しながら、植生の回復を図ることができます。道路の見通しが良くなるとともに草刈りの手間がなくなり、維持管理費が軽減されます。



鹿や熊から農業等の被害を防ぐ鳥獣害防止柵

鹿や熊の被害を防止する鳥獣害防止柵の支柱に間伐材を利用し、鹿や熊の侵入を防いでいます。

木製工事看板の設置

地域の間伐材を利用した木製看板は威圧感がなく、周囲の景観にもマッチしています。



間伐材を利用した木製視線誘導標の設置

金属製ではなく、地域の間伐材を利用した木製の視線誘導標を用いています。

